

収穫感謝祭

メインテーマ

今年も収穫に感謝し、餅つきや各種物品販売、楽器演奏によるコンサートでの地区内外の集客を図り、地域の人達が1年を感謝できるイベントを通して、師走の1日をみんなで楽しみたいと企画しました。

期 日 平成 27 年 12 月 6 日 (日)
時 間 午前 10 時～午後 2 時まで
場 所 ふれあい広場
主 催 鞍掛山麓千枚田保存会
共 催 連谷お助け隊・棚田っ娘
協 力 河西忍と「ゆかいな仲間」
新城高校農業クラブ

新城高校農業クラブの生徒たちが丹精込めて育てた農産物の販売を行います。
お楽しみ下さい。

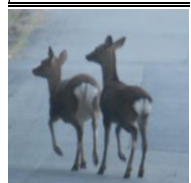


四谷の

千枚田だより



第 147 号



サミット参加

第二十一回全国棚田(千枚田)サミットが平成二十七年十月二十三日・二十四日に佐賀県玄海町で「共に伝えよう美しく豊かな棚田」をテーマとを未来へつなぐをテーマに開催された。このサミットには地域整備課安形課長さんも総会から出席、心強かった。保存会から六名が参加。小山泰弘、今泉雅男、原田英史、松下誠、高橋孝行は第一分科会 テーマ「棚田を未来へつなぐ」棚田保全の必要性に参加した。小山舜二は棚田保存会意見交換会 テーマ「棚田保全活動団体の運営と課題」を傍聴した。意見交換では、各地区の保全活動を行う団体が直面している組織の作り方、有り方、取り組みの進め方、財政的な問題、担い手確保などの多くの課題について二時間という、ゆったりとした時間を費やしてそれぞれが抱える課題、問題点について実のある意見交換が行われた。この棚田保全活動団体の意見交換会は第十九回(有田川町)より分科会の一つとして位置づけられたもので、全国の保存団

が一同に会しての課題解決には人数的に多く、散漫になることを危惧、本年から東西に地区分けして実施された。(舜)は東ブロックのため、参加資格はなく、スタッフからブロックされたが、持ち前の図々しさでコーディネーターの中島先生に口は出さないからと傍聴をお願いし、各地の棚田保全の取り組み、実状を習得した。結果的には喋らないことを条件であったが、中島先生から最後に意見交換会の感想、の機会を与えられ、また、喋ってしまった。

浜野浦の棚田



ウォーキング

十月十八日、連谷公民館・コミュニティ・小学校合同のふるさとウォーキングが行われた。

閉校記念事業全体会議で「今年で閉校だで、昔を偲びながら校区の名所旧跡を歩かまいかん」と決まり、公民館主催で、郷土史家の丸山惇志さんの説明を受けながら、校区を一周、ワイワイがやがや、時には真剣に、延べ一万歩を歩いた。

昼食の豚汁、チヨコつと alcohol もあったし、味飯は格別であった。午後は恒例のグラウンドゴルフに興じたが、今年も先生チームは賞を逃がしたようだ。



金比羅様のお祭り

十一月三日、真菰の小野田家が代々継承する金比羅様のお祭りが行われた。余興として近隣の弓道愛好家(十余名)が我が腕を誉めたり、相手を貶したり、和気藹々の雰囲気醸し出していた。想えば、(舜)も五十年前には「日置流」を学び、彼方此方のお祭りに参加。「お前の矢はニワトリの羽根だか、バカに地面を跳ねるのん」などと冷やかされたものだ。昔も今も射手に悪口を叩くことには変わりがない。



講演

十一月七日、新城文化会館を会場に「鞍掛山麓 四谷の千枚田」(棚田と里山が育くむ生物多様性)と題して二時間の講演を行った。



保存会役員会

十月三十日、連谷会館において保存会役員会が行われた。

議題は一、棚田サミット開催十周年記念シンポジウムの報告。二、収穫感謝祭について。三、ふれあい広場倉庫改修について等々が提案、決定された。

蕪出荷

十一月十日、榎横浜ゴムの好意で購入して頂いている蕪の出荷を行った。

ふるさと・水と手指導員連絡会議

十一月九日、岡崎市千方町…ころのふるさと千方町楽校(旧千方町小学校)を会場に各地区で活躍している指導員の活動報告、意見交換など有意義な連絡会議が開かれた。



今後の予定

- ・十一月十五日(日)、二十二日(日) への国自然ソムリエ学校
- ・十一月二十二日(日)、学習発表会
- ・十二月六日(日)、収穫感謝祭

行 平成二十七年十一月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二